

# 金沢

## かわら版

### 尾張町しにせ通りで

14

あつたわけではなし。ちよつと毛色の変わったことがあると、すぐ人が集まって来たはず。黒山の人だかりが、あつちに一つ、こつちに一つ。

テレビがあつたわけではなし、目の前で本物の轡回しの大道芸人、バナナのたたき売り、ガマの油売りありと、華やかさが夢ろつつにさせたとでしよろ。

芝居小屋では、江戸の十返舎一九にかけたといわれる、竹本一九の始めた「一九席」。向か

いには第四福助座、上尾張町には菊水俱樂部、浅野川沿いには尾山俱樂部と、いやでも入通りに拍車をかけていた。

あまりのにぎやかさに、金沢警察署の新町分署が大手内から真っすぐ突き当たった場所に出来たくらい。ここは、それまで前田の抱腹様の正門に向かい合っているため、恐れ多くて建物を通れない場所だった。せいぜいが仮設の芝居小屋といった程度だったのに、時代の勢いか。

石柱は今、静かに歴史を語りかけている。

(石野 秀一)  
尾張町若手会

## 芝居小屋

石柱だったものから石柱に立て替えられ、昭和六十年に金沢市によって建てられたガス灯と並んでいる。かつて石柱だった当時は、「名古屋鎮台」と書かれた石柱と共に立っていた。

明治維新の文明開化にわく金沢の政治・経済の中心をいち早く、江戸時代より続く尾張町と懸造りのにぎわいに求めたというか。文字通り、柱通り、ここは北陸の発信地だったようだ。時代の先端をいく、界隈(かいわい)のハイカラ洋物店の前には、高さ三十センチ、頭を丸くした石柱が今でもあり、下駄の歯に詰まった雪を落とすために使われたとか。

見上げると、レンガ造りの建物は東京帝國劇場をモデルにしただけあって、味わい深い。二階のテラスに立つジュリエット(Juliette)を模した、ジュリエットメオだろ。

考えてみれば、そんな建物

## にぎわい極まり 歴史を語る石柱



滝の白糸 水釜が評判だった芝居小屋あたりは、マシジョンが立つ住宅地に